

令和6年度全技連マイスター会事業計画

【令和6年度の基本姿勢「全技連マイスター会活動復活の年」】

新型コロナウイルス感染症の位置づけが、2類相当から5類相当に移行した昨年5月以降、ようやくこれまで自粛を余儀なくされてきた全技連マイスター会の諸活動も、ほぼ平年並みに復活してきたように思われます。

全技連マイスター会事業のうち大きなウエイトを占めている「事業費助成事業」を例にとり、過去5年間の事業件数をみると、下表のとおり、令和2年度・令和3年度はそれ以前に比べ半減していましたが、令和5年度は令和元年度と比較して80%以上にまで回復していることがわかります。

《年度・支部・事業数別 事業費助成件数》

| 年 度 | 支部数 | 事業数 |
|-------|-----------|----------|
| 令和元年度 | 27 (100%) | 34(100%) |
| 令和2年度 | 12 (44%) | 14 (41%) |
| 令和3年度 | 15 (56%) | 17 (50%) |
| 令和4年度 | 21 (78%) | 24 (71%) |
| 令和5年度 | 24 (89%) | 28 (82%) |

* 百分比は令和元年度を100%とした

全技連マイスター会活動の基本は、ものづくりの技能を後世に伝承していくことです。そのためには、多くの人々に直接ものづくりの過程を見てもらうことや直接ものづくりを体験してもらうことが極めて効果的です。しかしながら、コロナ禍以後直接多くの人々に見てもらい体験してもらう機会が減少し、必然的に全技連マイスター会の認知度が低下するとともに、その活動も弱体化していることは否めません。

このため、今年度は全技連マイスター会活動の復活に踏み出す好機であると言えます。引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、全技連マイスター会活動の復活を目指して、令和6年度の活動目標を以下のとおり設定したいと思います。

【令和6年度の活動目標】

1. 支部設置に取り組む

各都道府県のそれぞれの地域特性を踏まえ、その中で継続的に後継者育成とものづくり振興を図っていくことが、全技連マイスター会活動の根幹です。そして、その大きな担い手となるものこそ、全技連マイスター会の各都道府県支部です。

全技連マイスター会は、平成18年7月の発足以来、一貫して支部づくりに取り組むとともに、その奨励を促してきました。

令和元年(2019年度)を最後に、その後新しい支部づくりはできていません。現在の未設置県は13県です。支部が無い県は、全技連マイスター会としての活動が大きく削がれ、地域住民の方々の「ものづくり」への関心が育たず、ひいては技能に携わる後継者育成にも支障をきたすことになっています。

今年度の活動目標の第一として、昨年度と同様に「支部設置に取り組む」を掲げ、これに向けた取り組みを、未設置県に対して行ってまいります。

2. 会議費助成・主催行事助成事業の充実

今年度の活動目標の第二は、会議費助成・主催行事助成事業の充実です。

全技連マイスター会は、従来から各地域ブロック会や各都道府県支部への主催事業に対する助成に力を入れ、予算の範囲内で、その規模を充実してきました。

今年度は、全技連マイスター会活動の基本は地域ブロック・都道府県支部にあることを踏まえ、更に事業内容の充実に向け、積極的に取り組んでまいります。

3. 功労章授与事業等の充実

今年度の活動目標の第三は、功労章授与事業等の充実です。

平成27年度から導入されている「全技連マイスター会功労章」は、令和3年度のマイスター会発足10周年を記念し、その対象を大きく広げました。この結果、授与対象者も倍増し、長年各組織の責任者として努力されている多くの方々に報いることが出来るようになりました。

今後とも各支部からの情報の収集を確実にして、会員の皆さんのインセンティブを高めるため、本事業を充実させてまいります。

また、この制度とともに「全技連マイスター会会長賞」の授与制度があります。この制度は、類似団体が授与する「品評会等で優れた成績を収めたもの」のほかに、「催事事業の企画・運営に重要な役割を果たしたもの」・「組織の維持運営に継続的に貢献したもの」に授与する制度です。特に「組織の維持運営に継続的に貢献したもの」とは、マイスター会会員以外の事務局専従職員等も対象としており、縁の下で組織を支える方々を念頭に置いた「会長賞」です。

このため、功労章に加え、全技連マイスター会会長賞対象者の掘り起こしに対する努力にも期待いたします。

4. 全技連マイスター会「ホームページ」の充実

当会は「いわゆる会報」を発行していませんが、各会員間や支部間の情報交換の場として、ホームページを活用しています。

このため、各会員や支部から提供された活動状況をホームページに掲載し、充実した内容にするとともに、これらを活用して、各会員や支部の活動の一層の充実につなげていきます。